

ひきこもり支援のさらなるレベルアップを目指すための連続講座
第2回「ひきこもりケースの包括的アセスメント」のご案内

2019年6月吉日 公益社団法人青少年健康センター

講師：近藤直司先生（大正大学心理社会学部臨床心理学科 教授）

開催日時：2019年9月14日（土） 13:30~17:00

開催場所：東京都文京区駒込 6-1-9 キャピタルビル 2F

定員：50名（定員になり次第締め切りをいたします）

研修講座内容

ひきこもり問題は多様な側面を有し、様々な医療・保健・福祉問題の中でも、ひきこもりケースはとくにアセスメントが難しいものです。捉え方が多様で、専門家同士でも噛み合わないことが多いと見受けられます。そうした状況の中、アセスメントの技術の向上とともに、多職種が共通して活用できるよう、ひきこもりケースの包括的アセスメント(Global Assessment for Social Withdrawal(GAW))を考案するに至りました。

ここで扱うアセスメントとは、『一つ一つの情報を自分なりに解釈し、生じている問題の成り立ち mechanism を構成し、支援課題を抽出すること、あるいは、その人がどんな人で、どんな支援を必要としているのかを明らかにすること』と定義しておきます。アセスメントの技術を高めるには、情報の収集と整理（インテイク）－評価（アセスメント）－支援計画（プランニング）という3つの作業過程を意識すること、とりわけ「情報」と「評価」の違いを明確に意識することが決定的に重要です。また、『生物－心理－社会モデル』を使いこなすことによって、包括的でバランスのよいアセスメント技術が身に付くと思います。

本講座では、日常業務を通してアセスメントの力量を高めることを意図し、とくに「ケースレポートの方法」を取り上げます。ここでいう「ケースレポート」は、会議のような場だけでなく、同僚や上司にケースについて相談するような機会も含みます。研修当日は、自身のケースをレポートし、他の人のレポートを聴くというグループワークを通して、「話し方を意識することでアセスメントの力量が上がる」ということが理解できるはずです。また、日常業務において多くの時間を割いている「記録を書く」という作業も、工夫次第ではスキルアップにつながることを理解できると思います。

守秘性には十分に配慮しますので、ケースをレポートできる方に受講していただきたいと思います。専門職で、アセスメント技術に問題意識をもっている方などにお勧めしたいと思います。

【講師：近藤直司】

参考図書

近藤直司著：アセスメント技術を高めるハンドブック 第2版. 明石書店、2015

近藤直司著：青年のひきこもり・その後 包括的アセスメントと支援の方法論. 岩崎学術出版社, 2017

留意点

- ① 当日は講義とグループワークの形式をとります。講義にて、ひきこもりケースの包括的アセスメント(Global Assessment for Social Withdrawal(GAW)) を取り扱います。
- ② グループワークにて課題のケースレポートを取り扱います。
- ③ ケースレポートはひきこもりに限定されてなくて構いませんが、本人にお会いできているものに限定させていただきます。家族相談に関しましては、講義にて取り扱います。
- ④ 参加者には事前課題として研修資料を送付いたしますので、ご確認よろしくをお願いいたします。